

令和 7 年 9 月 25 日開催

石狩市教育委員会会議（9 月定例会）資料

<議案>

議案第 1 号 教育委員会点検・評価報告書（令和 6 年度実施分）について…別冊

<報告事項>

- ① 令和 7 年度石狩市教職員研修「サマーセミナー」実施報告について…P 1～4
- ② 令和 7 年度「俳句のまち～いしかり～」俳句コンテストの実施結果について
・・P 5～7

石 狩 市 教 育 委 員 会

令和7年8月26日

令和7年度 石狩市教職員研修「サマーセミナー」 報告

1. 期 日 令和7年8月20日（水）13:00～15:00

2. 場 所 花川北コミュニティセンター

3. 受講人数

花川小	18 (20)	緑苑台小	20 (23)	石狩中	12 (13)
生振小	8 (10)	双葉小	19 (22)	花川中	26 (30)
南線小	38 (47)	浜益小	11 (11)	花川南中	21 (22)
花川南小	22 (24)	石八幡小	12 (13)	花川北中	19 (20)
紅南小	20 (25)	厚田学園	9 (10)	樽川中	30 (31)
				浜益中	11 (11)
				計296名	(申込数332)
職員数384名に対しての率				77.1%	(86.5%)
				市議会議員	8名
				教育委員	4名
総計308名					

4. アンケート結果（回答人数161名 回収率54.1%）

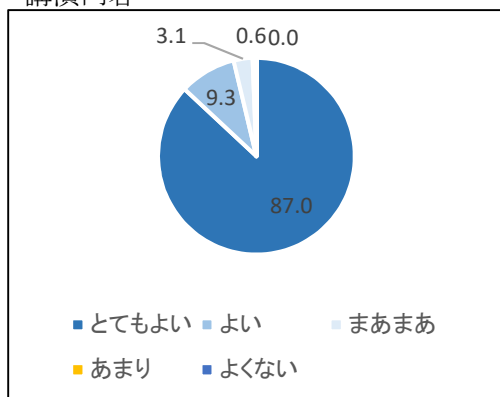
講演内容

	とてもよい	よい	まあまあ	あまり	よくない	計
人数	140	15	5	1	0	161
%	87.0	9.3	3.1	0.6	0.0	100.0

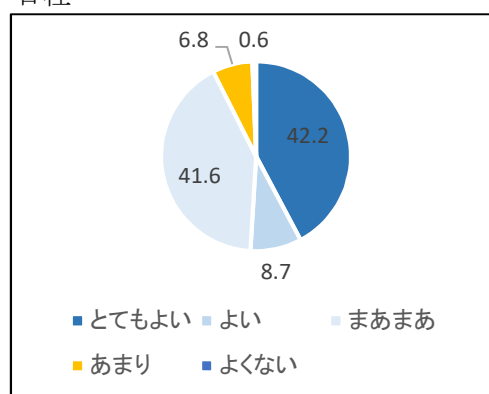
日程

	とてもよい	よい	まあまあ	あまり	よくない	計
人数	68	14	67	11	1	161
%	42.2	8.7	41.6	6.8	0.6	100.0

講演内容



日程



5. 今年度のサマーセミナーについて

(1) 講座内容

- ①演題 「スマホはどこまで脳を壊すか」
- ②講師 榊 浩平 氏 (東北大学応用認知神経科学センター 助教)
- ③内容 別紙資料1「講演の要旨」参照

(2) 受講者の感想・意見 (一部抜粋)

- 科学的根拠に基づいた説得力ある内容で話され、今後の改善に向けて、なすべきことが見えた。
- 子どもたちや保護者もしっかり学んでおく必要がある。親子の時間を大切にすべきことが、心に響いた。
- 子どもたち自身に、判断や自己コントロールの力をぜひ身につけさせたい。
- 成長段階の子どもたちにとって、スマホのリスクは大きいとは思っていたが、なぜ、どのようなリスクがあるのかがデータにより良く分かり、改めて危機感を覚えた。
- モデル校として何ができるか、子どもの声を大切にしながら、教員が共通理解のもと、アイデアを出し合いながら取組を進めていけたらと思う。
- 講師の先生の話し方から、講義というよりも共に子どもたちを育てていこうという思いが伝わってきてとてもありがたくそして、心強いと感じた。
- 学校に着いた後も、他の先生方と意見交流をして、スクリーンタイムをそれぞれが気をつけようという話になった。大人でも印象深い話だったので、子どもだとより話し合いが進むと感じた。
- 親や先生が子どもにルールを押し付けるのではなく、一緒に考えてルールを作っていくことは、石狩市が取り組んでいる「こどもまんなかまちづくり」と同じ考え方であり、とても素晴らしいことだと思う。
- 榊先生のご著書を事前に読んでから参加した。直接お話を聞くことで本の内容がさらに、わかりやすく伝わってきた。「目の前の子どもの事実」を大事にして、できることをやっていきたいと思った。
- スマホの使用時間によって、脳の働きの変化や及ぼす影響など、視覚的にもお話の内容もわかりやすく、大変勉強になった。教育現場もそうだが、まずは自分の家庭から見直していきたいと思える講演だった。

6. 次年度に向けて

- ①数日間で複数講座を開催する従来のスタイルで実施する。
- ②石狩市独自の講座と学習指導に関わる講座など、重点化・焦点化した4講座程度としたい。
- ③具体的には、
 - a. 毎年好評のいしかり学「石狩湾新港」(施設など毎年発展している)
 - b. 学習指導に関わる「算数・数学の授業改革」など(好事例の紹介、演習)
 - c. こどもの権利条例に関する講座(具体的な教育活動の紹介、交流)
 - d. 「手話」「俳句」「歴史探訪」は複数年(2～3年)に一度の開催とする。
 - e. 石狩浜海浜植物観察の講座(新設について検討)
 - f. 生徒指導関係や特別支援教育に関する講座は、教育支援課と講座内容について検討し、連携・協力をもとに開催する。

令和7年度 石狩市教職員研修「サマーセミナー」

『スマホはどこまで脳を壊すか』 講演の要旨

日時 令和7年8月20日(水) 13:00～15:00

場所 花川北コミュニティセンター

講師 榊 浩平 氏 (東北大学応用認知神経科学センター 助教)

1. スマホのリスクを知る 脳の機能を知る スマホを上手に活用する

脳は4つの領域に区分される。中でも人として大切な機能を担うのは「前頭前野」。そこでは、考える、理解する、覚える、我慢する、人を思いやる、気持ちを伝える、自分をコントロールすることを司っている。脳は使えば、鍛えれば育ち、使わなければダメになる。MRIで検査した結果、簡単な計算と音読をした時に活性化することがわかった。昔から言われる「読み」「書き」「計算」は、やはり脳の活性化に効果的である一方、ゲームをしている時に、前頭前野は働かない。



2. テレビやゲームよりもスマホの方が悪影響が大きい

テレビには番組の終わりがあがるが、スマホ、ネット動画には終わりがない。コンテンツの量は圧倒的に異なる。スマホの携帯性、多機能性、そして依存性が問題である。仙台市の児童・生徒7万人のデータから見ると、スマホの使用時間が1日1時間未満の子どもの学力が高い。それは、「我慢できる子どもは、自己管理能力が高いから」、と考える。

3. スマホをたくさん使う人は、なぜ学力が低いのか

スマホを平日1日あたり1時間以上使用すると学力に悪影響を及ぼしているデータがある。確かに学習時間や睡眠時間はそれにより減っている。衝撃的なデータとしては、スマホを毎日3時間以上使用している子どもは、「学習時間を長くしたり、睡眠時間をしっかり確保しても、テストの成績でSS50に到達しない」という現実。また、「ながら勉強」していても学習の効率、成績は上がらない。30分間スマホなしで集中することは、3時間、ながら勉強することに匹敵する。

4. 石狩市は？



3時間以上のスクリーンタイム

小学5年：男子52% 女子55% (対全国 +10%)

中学2年：男子66% 女子61% (同 +15%)

(R6 全国体力・運動能力、運動習慣等調査より)

会場どよめいたが… 自校の実態はどうだろうか？

対策が、かなり必要なのではないだろうか？

学力向上の余地、「伸びしろ」はたくさんある。今後、みんなと一緒に考え、策をつくっていけるとよい。

5. アナログか？ デジタルか？

知らない言葉を調べる時、紙の辞書では前頭前野は活性化し、スマホだと活性化が見られない。活性化がないと記憶にも残りにくい。では、調べ学習でICTを活用するのは望ましくないのか？ 要は、「目的は何か」である。効率的に調べる、知識を習得させ、それを活用させる。アナログは善で、デジタルは悪、との2択で考えるのではなく、TPOに応じた「ベストミックス」をしていくべきである。

6. オンラインでのコミュニケーションは？

オンラインによるカメラでは、目線が一致することが困難で、コミュニケーションの質が低下する。脳の活動が同期しないためである。

7. 学齢期、乳幼児の脳の発達は…

9歳～18歳で、スマホやネットを3年間使いすぎると、「脳が育たない」というデータがある。極端に言うと、小学6年生が3年間使い続けると、中学生での脳の発育が期待できないことになる。

近年、「スマホ育児」が多くの悪影響を及ぼしていることが問題になり始めている。2歳児で、インターネット利用時間の平均は約120分というデータもある。(R4年度 内閣府)

これらの問題は、学校や家庭のみで考えていくのではなく、地域や社会全体で考え、環境を整えていかなければならない。

8. では、どうすれば脳は育つか

先に述べた「前頭前野」の自分をコントロールする力をつけること。例えば、「スマホ等の使用は1時間未満とする」、と自分で決めて、実行することである。以上述べてきたような科学的根拠を知る→学級・家族で話し合う→ルールづくりをする。これらにより、事象を自分事ととらえ、自己管理能力が育成される。宮城県の「ゲームの長時間使用が課題の対象校」において、児童会の委員会毎にルールを作成した実践がある。時間はかかるが、子どもたちはそれを守り、ゲームの使用時間は激減した。大切なのは、ルールの内容より、この取り組みの「過程」である。

9. 多面的な見方、連携を

スマホ・ゲームをなくそう、減らそう、ばかりではなく、読書や運動等、別の活動を取り入れてスマホ時間を「押し出す」ことも考えられる。

しかし、上記の取り組み後、4時間以上、ゲーム等を使用する児童も1割弱、存在した。それらには、学校のみが指導や対応をするのではなく、SSWや関係機関との連携も必要である。家庭でのルールづくりも大切である。学校や担任のみが担うのではなく、役割分担を明確にして取り組んでいきたいものである。

10. 教育に、愛と理念を

家庭では、子育ての中で、時間・体験・感情を共有しながら、親子で脳の同期をしてほしい。今しかない可愛い時期は一瞬なので、そのかけがえのない時間を楽しんでほしい。

このAI時代に、学校では「人間教師」が果たす役割は何か？ 「自分だからできる」「人間くさいものの大事さ」「学校の価値」「人間教師の価値」、それらを日々考えながらやっていると、気づきがある。教育の基本は、子どもたちを見ることである。子育てや教育の正解は画面の中にはない。AI時代の今こそ、教育に愛と理念を持って、子どもたちをしっかりと見る基本に立ち返ってもらいたいと、切に願っている。

<報告事項②関係>

令和7年度「俳句のまち～いしかり～」俳句コンテスト実施結果について

主 催 特定非営利活動法人 石狩市文化協会
企画・運営 「俳句のまち～いしかり～」実行委員会

第21回俳句コンテスト（一般の部）

	令和7年度		令和6年度		比較	
	応募句数	応募者数	応募句数	応募者数	応募句数	応募者数
石狩市	58	29	44	22	14	7
道 外	56	28	86	43	-30	-15
道 内	156	78	166	83	-10	-5
総 数	270	135	296	148	-26	-13

兼 題 「波の花」及び自由題
選 者 小西 龍馬 氏（北海道俳句協会顧問）
齋藤 雅美 氏（北海道俳句協会会長）

天位（最優秀賞）	波の花「無辜の民」へと挽歌かな	札幌市	小林 道彦
地位（5点）	波の花海難に散る魂いくつ	広尾町	伊藤 ていこ
	網を縫ふ丸き背中や波の花	札幌市	福原 智子
	波の花同姓多き海難碑	岩内町	松本 きよし
	沖波の合唱歓喜の波の花	札幌市	猪俣 総恵
	妻の手の温もり嬉し波の花	千葉県	榎本 茂彦
人位（15点）	濡れそぼる袖に消えゆく波の花	愛媛県	川井 康陽
	ふるさとが招く宗谷の波の花	札幌市	千葉 藤雄
	波の花割れて砕けて散る羅臼	三重県	西出 泥舟
	田水張り星に預けて戻りけり	豊浦町	中西 真風
	シリエトクの風が風呼ぶ波の花	羅臼町	宮腰 鹿山
	旅立ちの朝の沈黙波の花	石狩市	畑中 貴子
	石狩は風棲むところ遠霧笛	小樽市	伊藤 玉枝
	風神の逆鱗に触れ波の花	京都府	本谷 眞治郎
	波の花荒らぶるさまは亡父に似て	石狩市	下岡 憲充
	夏霧に浮かべる影や陣屋跡	石狩市	小玉 富士子
	大時化のオロロンライン波の花	石狩市	久保 孝子
	石狩の波の花散る別れかな	北広島市	水口 茂
	足早の集団下校波の花	函館市	高橋 伸夫
	波の花飛ばば淋しさまたつのる	横浜市	佐野 良彦
	流れゆく雲に飛び乗るあめんぼう	登別市	袖山 功

※上記のほか、佳作20点を選出

第20回こども俳句コンテスト

対象者 市内小・中学生
 応募者(作品)数 2,059句(小学校10校 1,443名、中学校7校 616名)
 ※前年度 2,135句(小学校10校 1,581名、中学校7校 554名)
 兼 題 自由題 ※1人1句のみ
 選 者 赤繁 忠弘 氏(石の花俳句会)
 石川 美智子 氏(石狩かしわ俳句会) 棚橋 文男 氏(石狩憩吟社)

【小学生の部】

優秀賞(10点)	セミの声ねむれぬ夜がありました	石狩八幡小学校	4年	小井手 幹也
	菜の花の黄色い光のぬくもりを	花川小学校	6年	佐野 きす菜
	帰り道夕焼け空が目にしみる	生振小学校	5年	棚橋 心愛
	そよ風とはまなす香る石狩市	南線小学校	6年	高橋 幸成
	冬近し手稲おろしがやってくる	南線小学校	6年	宇井 丞太朗
	砂浜で耳に貝あて夏の音	南線小学校	6年	菅原 希香
	冬空にひとり素振りの影残る	花川南小学校	5年	石塚 蒼人
	雨上がりきれいな虹のすべり台	紅南小学校	5年	橋本 けんと
	梅雨はじめ木々にしたたる水の音	緑苑台小学校	6年	上田 敏貴
	今年こそスイカの種を植えてみる	双葉小学校	3年	後藤 颯太

佳作(20点)

アニメ見る私と窓の外の蝉	石狩八幡小学校	5年	鈴木 美惺
風鈴と肉汁の出るハンバーグ	石狩八幡小学校	6年	小栗 勝生
夏の空今宵片手に望遠鏡	石狩八幡小学校	6年	三枝 秀真
冬の雨天国からの送りもの	花川小学校	5年	浦田 岳空
夏の夜恋バナ楽しいだれが好き	花川小学校	5年	河部 琉星
日々運ぶポプラのわたげ窓超えて	花川小学校	5年	山口 ひかり
いい匂い祖父母の庭でバラ鑑賞	花川小学校	5年	工藤 千聡
夏の夜色んな虫の音楽会	南線小学校	4年	宮下 慧也
チリンリン聞こえてくるよ風鈴が	南線小学校	4年	加藤 亘将
たんぽぽが風にゆらゆら笑ってる	南線小学校	5年	四條 月菜
まだ六時セミのアラーム目がさめた	南線小学校	5年	村上 愛美
雪祭り全てが白く染まってる	南線小学校	6年	栗山 麗葉
砂と波風を感じる夏の音	南線小学校	6年	小田 愛結
夏の海ひょっこり顔を出したカニ	花川南小学校	3年	平塚 凌生
夏祭りがそくで食べたりんごあめ	花川南小学校	3年	山口 琴音
風の中ミニトマトたち踊りだす	花川南小学校	5年	田堂 樹
少しずつ青空へ飛ぶシャボン玉	花川南小学校	5年	旗手 奏介
サッカーの大会二位だ夏休み	紅南小学校	4年	和崎 楓
夏の日の同点ゴールうれしいな	紅南小学校	4年	森央 治朗
新記録みんなで目指す体育祭	厚田学園(前期課程)	5年	八木沼 翔伍

努力賞(1点)

弟と虫とりしたよおおはしゃぎ	浜益小学校	5年	久慈 桔平
----------------	-------	----	-------

【中学生の部】

優秀賞（１０点）

春風や完成しない竹細工	花川中学校	3年	小野 瑚雪
竹の秋みんなと食べし笹のかま	花川中学校	3年	増田 ゆずか
日曜日父と一緒に障子貼る	花川南中学校	1年	板屋 和希
夏野菜カレーに入れてめしあがれ	花川南中学校	1年	中川 夢結
サギソウは日なたで踊る天使かな	花川南中学校	1年	門脇 蒼
群来到来人もかもめも騒ぎ出す	花川南中学校	1年	武井 千佳
暗い部屋一人ぼっちの夏休み	花川南中学校	2年	菅原 菜々夏
朝焼けにまだ冷たさの残る風	花川南中学校	3年	久末 明璃
夜の窓蚊取り線香防波堤	花川南中学校	3年	三津橋 逞
さえずりが朝のしずけさけしてゆく	厚田学園	2年	加藤 結希

佳作（２１点）

優しさは心を癒やす春の風	石狩中学校	3年	林 琉衣
サケ達の命懸けでの里帰り	石狩中学校	3年	諸橋 和典
静けさに小鳥のさえずり金色堂	花川中学校	3年	菅原 ここ
桜舞う友と楽しむずんだもち	花川中学校	3年	前田 柑那
栗ご飯祖母の手作りもう一杯	花川南中学校	1年	佐々木 美羽
教室に夏風香る二時間目	花川南中学校	1年	田中 唯愛
朧月猫と一緒に夜空見る	花川南中学校	1年	尾藤 昊羽
夏の色拾う貝殻海の音	花川南中学校	1年	伊邊 海羽
風鈴の音鳴りひびく祖父の庭	花川南中学校	1年	湊 晴琉
向日葵は太陽めざし一直線	花川南中学校	1年	岡田 士輝
夏野菜皿を彩るサラダかな	花川南中学校	1年	金森 梨菜
夏休み課題を終える夢を見た	花川南中学校	2年	大沼 馨
夕立ちや濡れて笑顔の子らの声	花川南中学校	3年	山谷 海斗
きらきらと光る貝殻夏の浜	花川北中学校	3年	白土 桃花
バレンタイン頬を赤らめ君来たる	樽川中学校	3年	安田 真彩
合格の二文字目指した冬の夜	樽川中学校	3年	佐藤 結花
わかちあう勝利の香りライラック	樽川中学校	3年	小林 未昊
夏の夜大輪の花空に咲く	樽川中学校	3年	吉川 凜
花吹雪散るや川面に月ひとつ	樽川中学校	3年	加藤 雄誠
小糖雨皆ではしゃぐ散歩道	浜益中学校	3年	鎌田 一絆
夏の宵灯りを羽織る中華街	厚田学園（後期課程）	3年	笹谷 葵